

寺で葬儀を行う意味

今は葬儀社のホールでお葬式を行うことが主流の世となりました。確かに広い駐車場、空調設備の行き届いたホールがあり、何から何まで葬儀社スタッフが行ってくれるお葬式はご遺族の負担を軽減する利点があります。しかし、高額な祭壇費や会場費が葬儀後に葬儀社と施主の間で問題になる事もあります。

一昔前、葬儀は寺院あるいは自宅で行う事が当たり前でした。御本尊様を祀る寺院の本堂やご自宅の仏間で行う葬儀は、仏弟子となる受戒法要でもある葬儀を行う場所として最も適しています。

曹洞宗の葬儀は法要の中で両班の僧侶による鼓鉦（音楽）供養があり、その音によって仏界から諸仏菩薩をお招きし、見護られる中で、仏弟子としての正法の戒法と戒名を頂く儀式です。

普段あまりお付き合いのない隣組住民でも葬儀と火事（村八分の由来）の時だけは皆で助け合って行っていました。時代の変遷によって近所付き合いが希薄になった現代社会では、近隣住民に手伝ってもらって葬式を出すことも減ってきました。葬儀社間でも価格競争が始まり、一般住宅と間違えてしまうような簡易ホールも増えました。

最愛のご家族の葬儀を出すのは残された遺族の役目ですので、どのように亡き方を送って差し上げるかは遺族の判断に任されます。しかし、家族間での葬儀の継承が十分に行われなくなった現代社会では、いざ葬式を出す際に葬儀の意味をよく理解せずに行い、後で後悔する方も多いようです。私は住職として檀信徒の皆様幸せを一番に願っております。

高騰化する葬儀社の葬儀費用や、施主が意味を理解していないが為に簡略化してしまう葬儀のあり方が心配です。私は当山住職として、寺院が代わって行える準備や使用する仏具を法施（無料）でお返しする努力をして、最も重要な僧侶による仏事は正しく行って故人を送って差し上げたいです。当山は多くの檀信徒の皆様のご協力のおかげで、六年前に客殿が、そして今年四月に本堂が落慶し、そのような葬儀がお寺で行える事が可能になりました。

これからは、お施主様が希望されれば、お亡くなりになった方をすぐにお寺の位牌堂にお連れする準備も進めております。住職の依頼に応じて協力してくれる葬儀社も増えております。住職の依頼に応じて協

力してくれる葬儀社も増えております。しかも正しい仏事としての葬儀を行えるようにお寺での葬儀をお薦め致します。

お布施の説明や葬儀社の情報についても住職が事前相談に応じます。最愛の家族の葬儀をより良い仏事にするために協力していきましょう。



葬儀を行う新本堂